

沖縄語の学習のための漢字への仮名の振り方の事例集 (10 枚)

2007年9月2日

沖縄語研究家 船津好明

沖縄語の学習用の表記の混乱の一つに、漢字への仮名の振り方があります。多くの場合共通語の作法と不整合で、書き方に規範性なく、いたずらに学習負担を増大させ、学習者を迷わすことが問題です。学習者には、学ぶ側の拠り所となる書き方の規範が必要です。

以下、公刊物である沖縄語普及協議会発行の「沖縄ぬ暮らしと昔話」と「沖縄語新聞」を中心に書き方を調査して、教育上不適切と思われる事例を掲げます。印刷誤りではなく、他書に見られない同評議会の表記の方針のように思われます。同じ文献の中で「後(あとー)」、「後(あ)」が混在するなど、一貫性がありません。このような不適切な書法は、共通語に跳ね返って共通語の読み書きに悪影響をもたらし、学力の低下を招きます。

沖縄語の文献の中には、共通語の単語がかなり使われています。使われること自体は宜しいのですが、使われ方が不適切では共通語を間違える原因となり、沖縄語普及の障害になります。以下にはそういう言葉も含めてあります。

不適切な理由： 助詞の変音部分が振り仮名になる、送るべき仮名が振られているなど、振り仮名に余計な字が入っている。 振り仮名になるべき仮名が送られて、振り仮名の字が足りない。 言文不一致になっている。

「不適切な例」は実際にあったものです。

× 不適切な例	適切な例	文語的表現	対応する共通語
あさー 朝	あさ 朝ー、朝あ	あさ 朝や	あさ 朝は
あとー 後	あと 後ー、後お	あとう 後や	あと 後は
あとー 後とー	あと 後ー、後お	あとう 後や	あと 後は
いぐ 遺言のー	いぐの 遺言ー、遺言お	いぐん 遺言や	ゆいごん 遺言は
いち 生ちょーる	い 生ちちょーる		い 生きている(連体)
いちば 一番のー	いちばの 一番ー、一番お	いちばん 一番や	いちばん 一番は

×不適切な例	適切な例	文語的表現	対応する共通語
いちむのー 一門	いちむのー、いちむのー 一門ー、一門お	いちむん 一門や	いちもん 一門は
いちむー 一門のー	いちむのー、いちむのー 一門ー、一門お	いちむん 一門や	いちもん 一門は
いっ 入てい	い 入ってい		い 入れて
いめー 意味	いめー、いめえ 意味ー、意味え	いみ 意味や	いみ 意味は
いよー 魚よー	いよー、いよお 魚ー、魚お	いゆ 魚や	うお 魚は
いんとうこー 陰徳	いんとうこー、いんとうこお 陰徳ー、陰徳お	いんとうく 陰徳や	いんとく 陰徳は
うかめー 御神	うかめー、うかめえ 御神ー、御神え	うかみ 御神や	おかみ 御神は
うぐわん 御願のー	うぐわのー、うぐわのー 御願ー、御願お	うぐわん 御願や	いの お祈りは
うき 起ゆん	う 起きゆん		お 起きる
うしろー 御汁	うしろー、うしろお 御汁ー、御汁お	うしる 御汁や	おしる 御汁は
うたー 歌	うたー、うたあ 歌ー、歌あ	うた 歌や	うた 歌は
う 歌たー	うたー、うたあ 歌ー、歌あ	うた 歌や	うた 歌は
うた 御嶽けー	うたけー、うたけえ 御嶽けー、御嶽けえ	うたき 御嶽や	みたけ 御嶽は
うちなーん 沖縄人ちょー	うちなー ちょー、うちなー ちょお 沖縄ん人ー、沖縄ん人お		おきなわ ひと 沖縄の人は
うちなーんちょー 沖縄人	うちなー ちょー、うちなー ちょお 沖縄ん人ー、沖縄ん人お		おきなわ ひと 沖縄の人は
うちゃー 御茶	うちゃー、うちゃあ 御茶ー、御茶あ	うちゃ 御茶や	おちゃ 御茶は
うっとー 弟	うっとー、うっとお 弟ー、弟お	うっとう 弟や	おとうと 弟は
をう 夫とー	をうとー、をうとお 夫ー、夫お	をうとう 夫や	おっと 夫は

× 不適切な例	適切な例	文語的表現	対応する共通語
うぶ 御飯の一	うぶの 御飯一、御飯お	うぶん 御飯や	ごはん 御飯は
うまー 思 りゆん	うま 思ーりゆん、 思ありゆん		おも 思われる
う 思むとーん	うむ 思とーん		おも 思っている
うやー 親	うや 親一、親あ	うや 親や	おや 親は
う 親やー	うや 親一、親あ	うや 親や	おや 親は
ういなごー 女	ゐなご 女一、女お	ゐなく 女や	おんな 女は
うえーかたー 親 方	うえーかた 親 方一、親 方あ	うえーかた 親 方や	おやかた 親 方は
うえー 間 だー	うえーだ 間 一、間 あ	うえーだ 間 や	あいだ 間 は
がくむ 学問の一	がくむの 学問一、学問お	がくむん 学問や	がくもん 学問は
かしえー 歌 詞	かしえ 歌 詞一、歌 詞え	かし 歌詞や	かし 歌詞は
かし 頭らー	かしら 頭 一、頭 あ	かしら 頭 や	かしら 頭 は
かなー 仮名	かな一、かなあ	かな 仮名や	かな 仮名は
かべー 紙	かべ 紙一、紙え	かび 紙や	かみ 紙は
か 紙べー	かべ 紙一、紙え	かび 紙や	かみ 紙は
かま 食 すん	か 食ますん		た 食べさせる
かま 食りーる	か 食まりーる		た 食べられる(連体)
か 茅やー	かや 茅一、茅あ	かや 茅や	かや 茅は
かんげー 考	かんげ 考一、考え		かんが 考え

×不適切な例	適切な例	文語的表現	対応する共通語
かん 考げー	かんげー、かんげえ		かんがえ
かんぶ 漢文のー	かんぶのー、かんぶのお	かんぶん 漢文や	かんぶん 漢文は
きー 木ー	きー、きい 木、木		き 木
ぎょくろー 玉露	ぎょくろー、ぎょくろお	ぎょくろ 玉露や	ぎょくろ 玉露は
くいん 呉しえーる	くいんしえーる		くだ 下さる(連体)
ぐう 御恩のー	ぐうのー、ぐうのお	ぐうん 御恩や	ごおん 御恩は
くーぼー 昆布	くーぼー、くーぼお	くーぶ 昆布や	こんぶ 昆布は
くー 来ん	くーん、くうん		こない
ぐし 城こー	ぐしこー、ぐしこお	ぐしく 城や	しる 城は
く 釘じえー	くじえー、くじええ	くじ 釘や	くぎ 釘は
ぐ 如とう	ぐとう 如		ごとし(よう) 如し(様)
くとうばー 言葉	くとうばー、くとうばあ	くとうば 言葉や	ことば 言葉は
くとう 言葉ばー	くとうばー、くとうばあ	くとうば 言葉や	ことば 言葉は
くとー 事	くとー、くとお	くとう 事や	ことは 事は
く 事とー	くとー、くとお	くとう 事や	ことは 事は
ぐとー 如ん	ぐとーん		よう 様だ
ぐとー 如しが	ぐとーしが		よう 様だが
く 壁びえー	くべー、くべえ	くび 壁や	かべ 壁は

× 不適切な例	適切な例	文語的表現	対応する共通語
く 米めー	くめ 米ー、米え	くみ 米や	こめ 米は
くら 暮すん	く 暮らすん		く 暮らす
くるー 頃	くろ 頃ー、頃お	くる 頃や	ころ 頃は
く 頃ろー	くろ 頃ー、頃お	くる 頃や	ころ 頃は
くわえー 会えー	くわえ 会ー、会え	くわい 会や	かい 会は
さ 栄けーてい	さけ 栄ーてい、栄えてい		さか 栄えて
さんなのー 三男	さんなの 三男ー、三男お	さんなん 三男や	さんなん 三男は
しーとー 生徒	しーと 生徒ー、生徒お	しーとう 生徒や	せいと 生徒は
しがたー 姿	しがた 姿ー、姿あ	しがた 姿や	すがた 姿は
しが 姿たー	しがた 姿ー、姿あ	しがた 姿や	すがた 姿は
しちやー 下	しちや 下ー、下あ	しちや 下や	した 下は
じちえー 実	じちえ 実ー、実え	じち 実や	じつ 実は
じ 実ちえー	じちえ 実ー、実え	じち 実や	じつ 実は
じなのー 次男	じなの 次男ー、次男お	じなん 次男や	じなん 次男は
じぶ 時分のー	じぶの 時分ー、時分お	じぶん 時分や	じぶん 時分は
しまー 島	しま 島ー、島あ	しま 島や	しま 島は
しゅえー 首里	しゅえ 首里ー、首里え	しゅい 首里や	しゅり 首里は
しら 知しみゆん	し 知らしみゆん		し 知らしめる

× 不適切な例	適切な例	文語的表現	対応する共通語
じんめー 吟 味	じんめ じんめ 吟 味ー、 吟 味え	じんみ 吟 味や	ぎんみ 吟 味は
せー 幸 うえー	せーゑ せーゑ 幸 ー、 幸 え		さいわ 幸 い
たげー 互	たげ だげ 互 ー、 互 え		たが 互 い
たにのー 他 人	たにの だにの 他 人ー、 他 人お	たにん 他 人や	たにん 他 人は
たんに 尋 ゆん	たん だん 尋 にゆん		たず 尋 ねる
たん 炭 のー	たの たの 炭 ー、 炭 お	たん 炭 や	すみ 炭 は
ちー 来 ねー	ち ち 来 ーねー、 来 いねえ		く 来ると
ち 使 かーらん	ちか ちか 使 ーらん、 使 あらん		つか 使 えない
ち 綱 なー	ちな ちな 綱 ー、 綱 あ	ちな 綱 や	つな 綱 は
ちののー 知 念	ちのの ちのの 知 念ー、 知 念お	ちにん 知 念や	ちねん 知 念は
ちばや 頑 張 びら	ちば 気 張 やびら		がんば 頑 張 ろう
ちゃー 来 びたん	ち 来 やーびたん		き 来ました
ちやくしゑー 嫡 子	ちやくしゑ ちやくしゑ 嫡 子 ー、 嫡 子 え	ちやくし 嫡 子や	ちやくし 嫡 子は
ちゃ 来 ん	ち 来 やん		き 来た
ちやわ 茶 碗 ぬんかい	ちやわぬ 茶 碗 ぬんかい		ちやわん 茶 碗 に
ちゅー 来 ん	ち 来 ゆーん		く 来る
つちよー 人	つちよ づちよ 人 ー、 人 お	つちゆ 人 や	ひと 人は
つち 人 よー	つちよ づちよ 人 ー、 人 お	つちゆ 人 や	ひと 人は

× 不適切な例	適切な例	文語的表現	対応する共通語
ちよー 来 ん	ち 来 よーん		き 来 ている
とうくろー 所	とうくろ ー、 とうくろ 所 ー、 所 お	とうくろ 所 や	ところ 所 は
とうく 所 るー	とうくろ ー、 とうくろ 所 ー、 所 お	とうくろ 所 や	ところ 所 は
とう 歳 しえー	とうしえ ー、 とうしえ 歳 ー、 歳 え	とうし 歳 や	とし 歳 は
とう 妻 じえー	とうじえ ー、 とうじえ 妻 ー、 妻 え	とうじ 妻 や	つま 妻 は
とう 時 ちえー	とうちえ ー、 とうちえ 時 ー、 時 え	とうち 時 や	とき 時 は
なーふわー 那 覇	なーふわ ー、 なーふわ 那 覇 ー、 那 覇 あ	なーふわ 那 覇 や	なは 那 覇 は
なーふ 那 覇 わー	なーふわ ー、 なーふわ 那 覇 ー、 那 覇 あ	なーふわ 那 覇 や	なは 那 覇 は
なかー 中 かー	なか ー、 なか 中 ー、 中 あ	なか 中 や	なか 中 は
なげー 長	なげ ー、 なげ 長 ー、 長 え	なげ 長 え (注1)	なが あいだ 長い 間
なだー 涙	なだ ー、 なだ 涙 ー、 涙 あ	なだ 涙 や	なみだ 涙 は
なちじのー 今 帰 仁	なちじの ー、 なちじの 今 帰 仁 ー、 今 帰 仁 お	なちじん 今 帰 仁 や	なきじん 今 帰 仁 は
なまー 今	なま ー、 なま 今 ー、 今 あ、	なま 今 や	いま 今 は
な 習 らーすん	なら ーすん、 なら 習 ーすん、 習 あすん		なら 習 わせる (教える)
な 習 れー	なれ ー、 なれ 習 ー、 習 え		なら 習 い
なんちん 南 京 ぬん	なんちぬ 南 京 ん		なんきん 南 京 も
にげー 願	にげ ー、 にげ 願 ー、 願 え (注2)		ねが 願 い
に 願 げー	にげ ー、 にげ 願 ー、 願 え		ねが 願 い

×不適切な例	適切な例	文語的表現	対応する共通語
にんじのー 人 間	にんじの ー、 にんじの お	にんじん や	にんげん は
にんじ 人間のー	にんじの ー、 にんじの お	にんじん や	にんげん は
にんじょー 人 数	にんじょ ー、 にんじょ お	にんじゅ や	にんず は
にんじ 人数よー	にんじょ ー、 にんじょ お	にんじゅ や	にんず は
ぬー 主 しえー	ぬーしえ ー、 ぬーしえ え	ぬーし や	ぬし は
ぬー 何ーん	ぬー 何ん		なに 何も
ぬえー 糊	ぬえ ー、 ぬえ え	ぬい や	のり 糊は
ぬざちえー 野 崎	ぬざちえ ー、 ぬざちえ え	ぬざち や	のざき 野崎は
のーじえー 苗 字	のーじえ ー、 のーじえ え	のーじ や	みょうじ 苗字は
ふいがのー 彼 岸	ふいがの ー、 ふいがの お	ふいがん や	ひがん 彼岸は
ふいがん 彼岸のー	ふいがの ー、 ふいがの お	ふいがん や	ひがん 彼岸は
ふい 左 じゃえー	ふいじゃえ ー、 ふいじゃえ え	ふいじゃい や	ひだり 左は
ふい 昼ろー	ふいろ ー、 ふいろ お	ふいる や	ひる 昼は
ふ 他かー	ふか ー、 ふか あ	ふか や	ほか 他は
ふすくぶ 不足分のー	ふすくぶの ー、 ふすくぶの お	ふすくぶん や	ふそくぶん 不足分は
ふねー 船	ふね ー、 ふね え	ふに や	ふね 船は
ほーげ 方言のー	ほーげの ー、 ほーげの お	ほーげん や	ほうげん 方言は
まち 間違げー	まちげ ー、 まちげ え		まちが 間違い

×不適切な例	適切な例	文語的表現	対応する共通語
ま <sup>く</sup> - 真 <sup>っ</sup> 黒 <sup>る</sup>	ま <sup>く</sup> - 真 <sup>っ</sup> 黒		ま <sup>くろ</sup> 真 <sup>っ</sup> 黒
むの <sup>一</sup> 物	むの <sup>一</sup> 、むの <sup>一</sup> 物 <sup>一</sup> 、物 <sup>一</sup> お	むぬ <sup>一</sup> 、むん <sup>一</sup> 物 <sup>一</sup> や、者 <sup>一</sup> や	もの <sup>一</sup> 物 <sup>一</sup> は
むの <sup>一</sup> 者	むの <sup>一</sup> 、むの <sup>一</sup> 者 <sup>一</sup> 、者 <sup>一</sup> お	むぬ <sup>一</sup> 者 <sup>一</sup> や	もの <sup>一</sup> 者 <sup>一</sup> は
む <sup>一</sup> 者の <sup>一</sup>	むの <sup>一</sup> 、むの <sup>一</sup> 者 <sup>一</sup> 、者 <sup>一</sup> お	むぬ <sup>一</sup> 者 <sup>一</sup> や	もの <sup>一</sup> 者 <sup>一</sup> は
むも <sup>一</sup> 桃	むも <sup>一</sup> 、むも <sup>一</sup> 桃 <sup>一</sup> 、桃 <sup>一</sup> お	むむ <sup>一</sup> 桃 <sup>一</sup> や	もも <sup>一</sup> 桃 <sup>一</sup> は
むら <sup>一</sup> 村	むら <sup>一</sup> 、むら <sup>一</sup> 村 <sup>一</sup> 、村 <sup>一</sup> あ	むら <sup>一</sup> 村 <sup>一</sup> や	むら <sup>一</sup> 村 <sup>一</sup> は
め <sup>一</sup> 前 <sup>一</sup>	め <sup>一</sup> 、めえ <sup>一</sup> 前 <sup>一</sup> 、前 <sup>一</sup>		まえ <sup>一</sup> 前 <sup>一</sup>
め <sup>一</sup> に <sup>一</sup> 毎 <sup>一</sup> 年 <sup>一</sup> の <sup>一</sup>	め <sup>一</sup> に <sup>一</sup> の <sup>一</sup> 、め <sup>一</sup> に <sup>一</sup> の <sup>一</sup> 毎 <sup>一</sup> 年 <sup>一</sup> 、毎 <sup>一</sup> 年 <sup>一</sup> お	め <sup>一</sup> に <sup>一</sup> ん <sup>一</sup> 毎 <sup>一</sup> 年 <sup>一</sup> や	まいねん <sup>一</sup> 毎 <sup>一</sup> 年 <sup>一</sup> は
め <sup>一</sup> に <sup>一</sup> ん <sup>一</sup> 毎 <sup>一</sup> 年 <sup>一</sup> の <sup>一</sup>	め <sup>一</sup> に <sup>一</sup> の <sup>一</sup> 、め <sup>一</sup> に <sup>一</sup> の <sup>一</sup> 毎 <sup>一</sup> 年 <sup>一</sup> 、毎 <sup>一</sup> 年 <sup>一</sup> お	め <sup>一</sup> に <sup>一</sup> ん <sup>一</sup> 毎 <sup>一</sup> 年 <sup>一</sup> や	まいねん <sup>一</sup> 毎 <sup>一</sup> 年 <sup>一</sup> は
や <sup>一</sup> 役 <sup>一</sup> の <sup>一</sup>	や <sup>一</sup> 、や <sup>一</sup> 役 <sup>一</sup> 、役 <sup>一</sup> お	やく <sup>一</sup> 役 <sup>一</sup> や	やく <sup>一</sup> 役 <sup>一</sup> は
や <sup>一</sup> 山 <sup>一</sup> の <sup>一</sup>	やま <sup>一</sup> 、やま <sup>一</sup> 山 <sup>一</sup> 、山 <sup>一</sup> あ	やま <sup>一</sup> 山 <sup>一</sup> や	やま <sup>一</sup> 山 <sup>一</sup> は
やま <sup>一</sup> 大 <sup>一</sup> 和 <sup>一</sup> と <sup>一</sup>	やまと <sup>一</sup> 、やまと <sup>一</sup> 大 <sup>一</sup> 和 <sup>一</sup> 、大 <sup>一</sup> 和 <sup>一</sup> お	やまと <sup>一</sup> 大 <sup>一</sup> 和 <sup>一</sup> や	やまと <sup>一</sup> 大 <sup>一</sup> 和 <sup>一</sup> は
ゆ <sup>一</sup> 床 <sup>一</sup> の <sup>一</sup>	ゆか <sup>一</sup> 、ゆか <sup>一</sup> 床 <sup>一</sup> 、床 <sup>一</sup> あ	ゆか <sup>一</sup> 床 <sup>一</sup> や	ゆか <sup>一</sup> 床 <sup>一</sup> は
ゆる <sup>一</sup> 夜 <sup>一</sup>	ゆる <sup>一</sup> 、ゆる <sup>一</sup> 夜 <sup>一</sup> 、夜 <sup>一</sup> お	ゆる <sup>一</sup> 夜 <sup>一</sup> や	よる <sup>一</sup> 夜 <sup>一</sup> は
ゆる <sup>一</sup> 夜 <sup>一</sup> の <sup>一</sup>	ゆる <sup>一</sup> 、ゆる <sup>一</sup> 夜 <sup>一</sup> 、夜 <sup>一</sup> お	ゆる <sup>一</sup> 夜 <sup>一</sup> や	よる <sup>一</sup> 夜 <sup>一</sup> は
よ <sup>一</sup> か <sup>一</sup> 八 <sup>一</sup> 日 <sup>一</sup>	よ <sup>一</sup> か <sup>一</sup> 、よ <sup>一</sup> か <sup>一</sup> 八 <sup>一</sup> 日 <sup>一</sup> 、八 <sup>一</sup> 日 <sup>一</sup> あ	よ <sup>一</sup> か <sup>一</sup> 八 <sup>一</sup> 日 <sup>一</sup> や	よ <sup>一</sup> か <sup>一</sup> 八 <sup>一</sup> 日 <sup>一</sup> は
ら <sup>一</sup> こ <sup>一</sup> 薬 <sup>一</sup> あらん	ら <sup>一</sup> こ <sup>一</sup> あらん、ら <sup>一</sup> こ <sup>一</sup> 薬 <sup>一</sup> あらん、薬 <sup>一</sup> おあらん	らく <sup>一</sup> 薬 <sup>一</sup> やあらん	らく <sup>一</sup> 薬 <sup>一</sup> ではない
わかむ <sup>一</sup> 若 <sup>一</sup> 者 <sup>一</sup> の <sup>一</sup>	わかむ <sup>一</sup> の <sup>一</sup> 、わかむ <sup>一</sup> の <sup>一</sup> 若 <sup>一</sup> 者 <sup>一</sup> 、若 <sup>一</sup> 者 <sup>一</sup> お	わかむん <sup>一</sup> 若 <sup>一</sup> 者 <sup>一</sup> や	わかもの <sup>一</sup> 若 <sup>一</sup> 者 <sup>一</sup> は

×不適切な例	適切な例	文語的表現	対応する共通語
わしーる	わし 忘ーる、 忘いる		わす 忘れる(連体)
わらべー	わらべ 童ー、 童え	わらび 童や	こども 子供は
われー	われ 笑ー、 笑え		わらい 笑い
んかせー 音	んかせ 音ー、 音え	んかし 音や	むかし 昔は
んかせー 音	んかせ 音ー、 音え	んかし 音や	むかし 昔は

(注1)「長さは」に対しても「長ー、<sup>なげ</sup>長え」、文語的には「<sup>なぎ</sup>長や」。

(注2)「<sup>にげー</sup>願」と書くのも許容はされるが、学習には「<sup>にげ</sup>願ー、<sup>にげ</sup>願え」の方がよい。

参考に、共通語では「とりあつかい」は「取り扱い、取り扱、取扱い、取扱」などと書いて通っているが、学習には「取り扱い」がよい。

沖縄語に関する筆者の2007年以降の全論文はWeb上にあり、  
<http://www.wvq.jp/p/fpapers.html> から自由にダウンロードできます。

照会先：〒1870002 東京都小平市花小金井2-6-1  
 船津好明

Tel/Fax 042-467-1273

Email funatsu@mfv.biglobe.ne.jp